

平成 24 年度（2012 年度）豊中市ごみ減量実験 結果概要

今回の豊中市減量推進課主催ごみ減量実験には 22 世帯（65 人）の方にご協力いただきました。ごみ減量実験の結果概要を以下にご報告させていただきます。

○なお、本実験結果については、一定の条件のもとでの試算値であり、参加世帯が 22 世帯と少ない点やごみの量も季節により変動がある等の問題点も含み結果の解釈には留意が必要です。また、当実験は、ごみがどれくらい減ったかという点だけではなく、ごみの減量要因に対する参加者自身の気づきも大切にする趣旨で実施しています。

【ごみを意識しない生活を一週間、意識した生活を一週間送った結果】

1. 可燃ごみ

	ごみ全体の量	1 世帯あたりのごみの量	1 人あたりのごみの量
A. ごみを意識しない生活	116.0kg	5.3kg	1.8kg
B. ごみを意識する生活	97.5kg	4.4kg	1.5kg
A-B	18.5kg	0.9kg	0.3kg

・可燃ごみ全体の量では、意識するだけで、一週間で約 19kg のごみが減らせることがわかりました。22 世帯がこのままごみ減量を意識して生活すれば 1 年間では約 962kg（注 1）ごみの重さを減らすことができます。

・一世帯あたりの可燃ごみ量は意識すれば一週間で約 1kg 減らせることから、豊中市民全体（約 17 万世帯）が一年間協力すれば、約 7,960t（注 2）のごみ減量が可能となります。これは、平成 23 年度（2011 年度）の家庭から出る可燃ごみ量 56,051t の約 14% にあたり、大きなごみ減量につながるということがわかりました。

2. プラスチック製容器包装

	ごみ全体の量	1 世帯あたりのごみの量	1 人あたりのごみの量
A. ごみを意識しない生活	20.1kg	0.9kg	0.3kg
B. ごみを意識する生活	14.7kg	0.7kg	0.2kg
A-B	5.4kg	0.2kg	0.1kg

・プラスチック製容器包装全体の量では、22 世帯で約 5kg 減らせることがわかりました。可燃ごみと同様に、このまま減量を意識して生活すると、年間約 281kg（注 3）のごみの減量が可能となり 1 枚約 10g 程度のレジ袋や発泡トレーで換算すると 28,100 枚分減量したことになります。市内全体の約 17 万世帯で換算すると、年間約 1,770t（注 4）の減量が可能となります。

・プラスチック製容器包装ごみは、可燃ごみに比べ重量は軽いものの、容積が大きいのが特徴です（重量の約 30 倍が容積といわれています）。容器包装ごみの削減は収集運搬やリサイクルに係る費用の削減やリサイクルの際の CO2 排出抑制にも大きな効果を及ぼすことになります。

(注1) 18.5kg×52週=962.0kg

(注2) 0.9kg×17万世帯×52週=7,956,000kg=7,956t

(注3) 5.4kg×52週=280.8kg。

(注4) 0.2kg×17万世帯×52週=1,768,000kg=1,768t。なお、市では平成23年度まで、プラスチック製容器包装はモデル地区収集(市内全世帯の約30%)を実施しており、平成23年度は659tの収集実績がありましたがこの量を大幅に上回っています。

【参加者の主な意見】

- ・ごみを減らすために、「紙ごみを分別する」、「生ごみの水切りをする」、「買い物袋を持参する」という点に気をつけているという方がほとんどでした
- ・外食・内食か、家で作って食べるかどうかといった食のスタイルの在り方がごみの量に結び付く点を指摘する意見が何件か上がっていました。
- ・「プラスチック製容器包装はほとんどのものについているので減らなかった」ということを感じた方もいました。
- ・余分なものを買わないことの大切さに気付いたという方もいました。
- ・多くの商品がプラスチック製容器包装に包まれていることを指摘し製造者・販売者型でのごみ減量意識を高めてもらうことも大切だという指摘もありました。
- ・「ほんの少し意識するだけでも大きく結果が変わります。たくさんの方が少し変わるだけでも効果があると思うので、広くアピールしていくことが必要だと感じました。」というご意見もいただきました。

【基本属性等】

- ・実施時期：平成24年(2012年)7月21日から8月31日までの任意の2週間
- ・参加者：豊中市民 22世帯(65人)

1. 回答者の年代

年代	回答者数	割合
10代	9	40.9%
20代	0	0.0%
30代	2	9.1%
40代	3	13.6%
50代	2	9.1%
60代	3	13.6%
70代	2	9.1%
80代	1	4.5%
合計	22	100.0%

2. 家族数

家族数	回答者数	割合
1人	1	4.5%
2人	5	22.7%
3人	10	45.5%
4人	6	27.3%
合計	22	100.0%

3. 回答者の年代

主なごみ減量の工夫	回答者数
紙ごみを分別した	8
食品ごみの水切りをした	6
買い物袋を持参した	6
残さず食べた	2

(複数回答可)

※10代の9名は、小学生の皆さんに夏休みの自由研究の一環として取り組んでいただきました。

実験を通じみなさんの少しの意識でごみ大幅に減ることがわかりました

豊中市全体でごみの減量を！